

半導体漫遊記

湯之上隆

④

シャープが苦境に立たされている。2012年度にソニー、パナソニックと共に3社合計で1兆8千億円の赤字を計上した。その後、ソニーやパナソニックは黒字化する見込みだが、シャープだけが13年度も2500億円の赤字になるという。

シャープ、経営不振に

棚ボタ好機に再起期待

「世界の亀山モデル」で一世を風靡した、志社大学の教員。研究亀山工場も、液晶テレビ「アクオス」からスマホなどのパネルへ転換する。また提携を交渉中の鴻海がシャープの生殺与奪権を握ることになる。

何事にも「原因と結果」がある。シャープ

と、「シャープは液晶で圧倒的な技術を持っている。日本のDRA Mのようになることはありえない」と力強い答えが返ってきた。

ところが次に「サムスンの営業利益率は30%なのにシャープは数%しかありません。ここに、その「危惧」が現

れはなぜですか？」と聞くと、「そうなんだよ、なぜ10倍もの差がつくのか私にも分からないんだ」と言うのである。これには驚いた。理由が分からなければ利益率の差を縮める努力もできないじゃないか！

私はこの時、ビジネス

よる買い替えが終わった。利益率の低いシャープが転落するのは至極当然だったように思われる。

そのシャープに幸運

が転がり込んできた！現在、世界中でアップルとサムスンがスマホをめぐる訴訟合戦を行っている。米国ではアップルが勝訴したが、日本ではサムスンが勝った。この結果に激怒したアップルは、パネルの調達先をサムスンからシャープに切り替えると発表した(DRAMもサムスンからエルピーダに変更)。

棚ボタではあるが、このチャンスをガッチリつかみ、シャープの再起を期待したい。(半導体技術者・社会学者)

「世界の亀山ブランド」と言われたシャープの亀山工場

